

簡易版BCPのジギョケイは 万ーを考えるきっかけに

東京代協中央支部

ジギョケイ推進、変額保険活用でセミナー



井上支部長

第1部は、三井住友海上あいおい生命営業教育企画部経営コンサルティンクグループの倉田宏治氏がジギョケイ申請書作成をテーマに講演。近年、頻発する豪雨災害や、今後発生が懸念される富士山の噴火、南海トラフ地震、首都直下地震等の自然災害時に、企業は早急な事業再開が重要となるが、BCP策定の有無で大きな差が出る。こうした事態ではヒト・モノ・カネが重要という同氏は「簡易版BCPのジギョケイは万が一を考えるきっかけになる」とし、同制度創設の経緯や概要、認定取得までの手順を解説した。

同氏は「保険代理店は

第2部は生保代理店側
ジェフイック代表取締役



倉田氏

大切な法人顧客が、強靱で大災害に負けない持続可能な会社になるお手伝いができる」と強調し、認定申請をサポートしながら保険契約へつなげる可能性にも言及した。また、自分の命は自分で守るという中央防災会議のメッセージを受け「行政には限界がある」と指摘。「自社が認定を受けおけば説得力がアップする」「ジギョケイ申請のサポートは喜んでもらえる可能性が高く、法人顧客の開拓にもなる」と述べ、自社と顧客企業を守るためにも、ジギョケイ認定取得と顧客サポートを推奨した。



高田氏

社長の高田礼氏が「長寿社会の金融知識 人生100年時代における金融リスク」と題して講演を行った。同氏は、外資系金融機関での経験を通して、オーナー企業の財務コンサルや事業承継コンサル等を展開しているという。

同氏はまず、日経平均株価の推移を解説。1950年から40年間で400倍と増大した一方、その後35年間は8割減というデフレに陥っており、「日本経済は世界でも例を見ないほど異質」と指摘した。その上でデフレ・株安・円高・金利安だった平成に対して、令和はインフレ・株高・円安・金利高になると予測し、「今のインフレ率では22年後に物価が2倍になる一方で、円の価値は半分になる」といい、企業も家計も「価格が変動しない預貯金は安全資産」という平成の考え方を改め時代の変化に乗り遅れないよう注意喚起した。

また、顧客である中小企業の現金を増やす必要性に言及。同氏によると変額保険で、15歳男子が月50000円、80歳までの65年間で投資元本390万円が過去実績で計算すると2億円になるという。このような試算で、変額保険を活用すること、従業員の退職金の創出

が可能になり、物価上昇が続く中、手を打たないと事業の継続も困難になると語った。一方でこうした試算は短期間では難しく、15年運用で元本割れはゼロになると説明した。

同氏は、「株は能動的に上昇している。顧客の中小企業のためにも、変額保険の取扱いがあるならば、積極的に提案してみてほしい」と、金融知識を活かした保険提案を呼びかけた。

東京代協中央支部(井上泰弘支部長)は9月12日、京橋区民プラザ(東京都中央区)で令和7年度中央支部セミナーを開催した。第1部は大規模地震等が懸念される中で事業継続力強化計画認定制度(ジギョケイ)の推進をテーマに、また第2部では昨今の株高を背景に金融への理解を深めながら変額保険を活用した顧客提案について考えた。

事業再開はBCP策定で差

ヒト・モノ・カネが重要に



(損保版)

第1～4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区靱本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2420円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2025

78th
Anniversary
since 1947

創業昭和22年

保険・共済業界と
共に歩んで78年